

報道関係各位

SC販売統計調査報告 2020-2021年 年末年始販売統計調査報告

前年比 売上高▲28% | レジ客数▲27% | 客単価▲2%

<全体概況>

①全期間(12/28~1/3)・・・前年比 売上高▲28% | レジ客数▲27% | 客単価▲2%

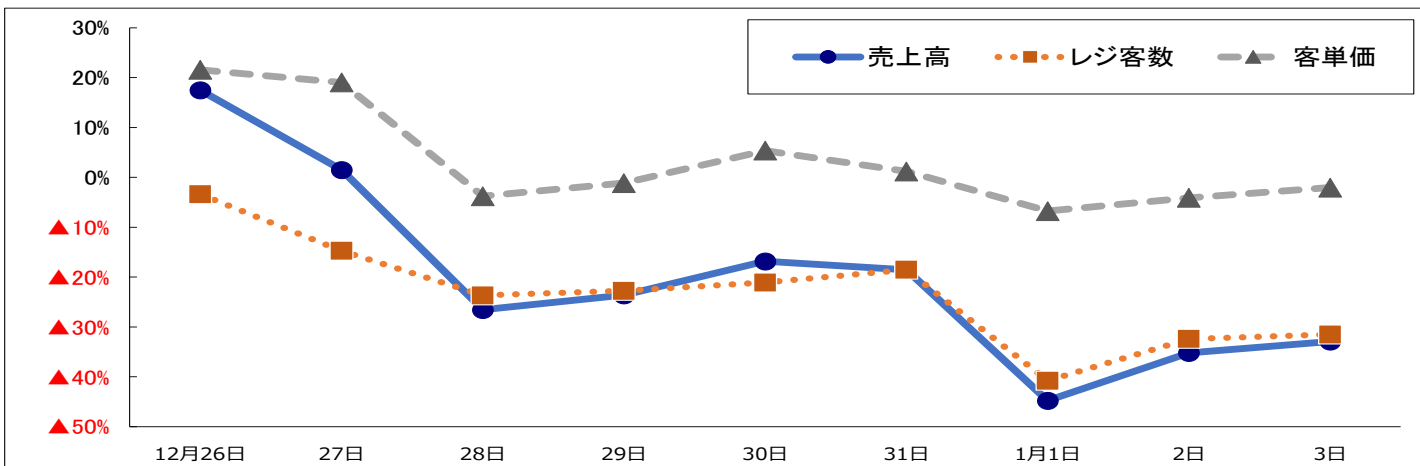
本期間のSC売上高は前年比▲28%となった。期間中には東京都の新型コロナウイルス新規陽性者数が急激に増加するなど、全国的に外出自粛傾向が一層強まったことに加え、昨年と比べ営業時間を短縮したSCがサンプル数の43%を占め、レジ客数大幅減(▲27%)の要因となった。また、大手企業の年末賞与の減額(経団連調べ)が報じられるなど、消費者の購買意欲の低下がみられたためか、例年の大きな商戦である冬のバーゲンにおいて、単品買いの傾向がみられたこともあり、客単価も前年をわずかに下回る結果(▲2%)となった。立地別では、これまでのコロナ禍の傾向と同様、中心地域がより厳しい売上(▲36%)となった。都市規模別では、大都市が最も苦戦した(▲32%)が、外出自粛に伴う年末年始の帰省控えもあり、中都市および小都市・町村も▲20%台と大きくマイナスとなった。

②年末(12/28~12/31)・・・前年比 売上高▲21% | レジ客数▲22% | 客単価+1%

年末の売上高は▲21%となったものの、客単価は前年比+1%と前年をわずかに上回った。これは、コロナ影響により、例年と比べ自宅で過ごす時間が増え、自ら料理する機会が増えたために正月前の駆け込み消費として生鮮食品に動きがみられたこと、また、例年は忘年会等の飲食に消費される額が高単価のおせち料理類に費やされ、加工食品の動きが良かったこと等が要因と推測される。一方、レジ客数は大幅なマイナス(▲22%)となった。これは、外出自粛傾向に加え、本調査が日付対比としているために年末最後の土日が対象期間に含まれていない(前年は28日(土)、29日(日))ことも要因として挙げられる。なお、本調査対象期間外の26日(土)は売上高前年比+17%、27日(日)は同+2%と前年を上回る数値となっている。

③年始(1/1~1/3)・・・前年比 売上高▲37% | レジ客数▲34% | 客単価▲4%

年始の売上高は前年比▲37%と前年を大きく下回った。コロナ感染拡大防止策として、3密回避を目的にバーゲンを12月から前倒しで開始し、例年より期間を長く設定する等、来館客を分散させたSCが多くみられたこともあり、レジ客数は▲34%となった。また、福袋も同様に特定日の密集を避けることを目的に、12月から予約販売を実施したSCが多く、客単価も前年を下回る結果となった。特に、福袋を前倒した影響は大きく、例年大きな盛り上がりを見せる元月初売りに対して、売上高(▲45%)およびレジ客数(▲41%)が大幅なマイナスに落ち込む要因となった。また、初詣や帰省等により、例年見受けられる親子3世代での来館・消費が弱く、特に、飲食売上上の不振要因となった。



	期間別			日別							(参考)			
	全期間 28日-3日	年末 28日-31日	年始 1日-3日	年末				年始			全期間 26日-3日	年末 26日-31日	日別	
				28日	29日	30日	31日	1日	2日	3日			26日	27日
売上高	▲28%	▲21%	▲37%	▲27%	▲24%	▲17%	▲19%	▲45%	▲35%	▲33%	▲22%	▲13%	17%	2%
レジ客数	▲27%	▲22%	▲34%	▲24%	▲23%	▲21%	▲19%	▲41%	▲32%	▲32%	▲23%	▲18%	▲3%	▲15%
客単価	▲2%	1%	▲4%	▲4%	▲1%	5%	1%	▲7%	▲4%	▲2%	1%	6%	22%	19%

以上

この件に関するお問い合わせは 情報企画部:金田・菰田・高田
TEL:03-5615-8524

※お手数をおかけ致しますが、掲載紙・誌をお送り致しますようお願い申し上げます。掲載部分をファクシミリにてお送りいただいても結構です。



一般社団法人 日本ショッピングセンター協会

広報担当: 高田・村松・瀧澤・浅田
Tel. 03-5615-8524 / Fax 03-5615-8539
Mail. pr@jcsc.or.jp